

ふうしゃだより

WINDMILL LETTER

2022.
11月号

皆様こんにちは。日本風力エネルギー（株）です。

二十四節気では小雪を迎え、朝晩の冷え込みも一層厳しくなってきました。

鳥取市では、11月初め「除雪車の出発式」が行われたようです。我々も厚手のコートを出したりと冬への備えたいものです。



注目CONTENTS

- ・ 鳥取大学名誉教授西田先生インタビュー『鳥取県における地震の特徴について』
- ・ 日本風力エネルギー、中里風力発電所（青森県）の商業運転を開始



弊社が計画しております「(仮称)鳥取風力発電事業」は計画段階であり、風車の位置などは地域住民や専門家のご意見を頂きながら、進めてまいります。説明会や話し合いの機会を頂戴できずと幸甚です。環境影響評価方法書への知事意見として、「住民等一人一人にきちんと情報が届くように丁寧に説明をおこなうこと」が求められました。「ふうしゃだより」が情報提供の一端を担えるよう尽力してまいります。

お問い合わせ

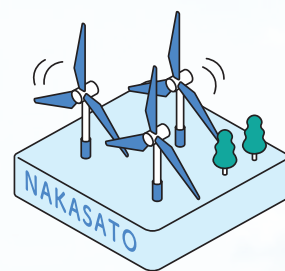
日本風力エネルギー株式会社 鳥取事業所（鳥取風力合同会社）

〒680-0404 鳥取県八頭郡八頭町見槻中154-2 準LAB 2-A
TEL. 0858-76-0700 FAX. 0858-76-0701



(仮称)鳥取風力発電事業 専用サイト：<https://project.venaenergy.co.jp/tottori/>

中里風力発電所(青森県)の 商業運転開始



11月22日(火)濱館中泊町長や地元関係者にご臨席頂き、
中里風力発電所の竣工式が執り行われました。

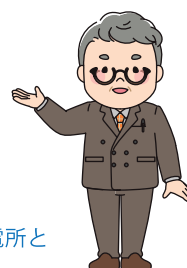
濱館中泊町長からは以下のような祝辞をいただきました。

風力発電所の稼働に関して

地球温暖化防止対策の必要性が高まり中、中泊町の『風』を生かした本事業を通じ、地球環境への
貢献及び持続可能な社会の実現に向け、ともに取り組んでいきたいと考えております。

日本風力エネルギー株式会社からの寄付の活用方法について

大正期のスタンドグラスが残る旧家「宮越家」を核とした観光事業、スマート農業や養殖事業など
幅広く活用していきたいと考えております。地域に愛され、地域と共に発展していく中里風力発電所と
なるよう大いに期待しております。



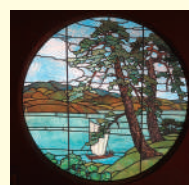
□ 地域と共に。

中泊町の地域活性のために売電収入の一部をご活用いただいています。

中里風力発電所は、地域の自然資源である『風』を活用し、クリーンなエネルギーを事業者やご家庭に供給して
います。売電収入の一部を中泊町の地域活性事業へご活用頂いています。

寄附金の主な使い道

- ① 宮越家「離れ・庭園」保存・維持管理事業
発電所と同じ尾別地区にあ宮越家「離れ・庭園」の保存や維持管理
- ② 町総合福祉健康センター建設事業
フィットネスジムやレストランを備えた複合温泉施設を整備若者から
高齢者まで全ての世代の健康福祉増進と地域活性化を図る
- ③ スマート農業
先進技術を活用した効率的生産を支援し、経営規模拡大や農業所得の
向上を図る
- ④ 養殖事業
将来にわたって漁獲を得るため、増養殖事業の拡充を図り、「守り育
てる漁業」を推進する
- ⑤ 子育て支援、農林水産業や観光業の振興、持続可能な地域づくりなど
その他の町施策推進など



データで見る「中里風力発電所」

中里風力発電所は、年間およそ22,000世帯にクリーンなエネルギーを供給します。

発電所名と所在地	中里風力発電所
発電容量(発電所の規模)	46.7MW(出力制限後36.0MW)
風車数	13基
風車一基あたりの出力	3,600 kW
風車高	175メートル



中里風力発電所を運営管理を行っている「津軽事業所」のメンバー。第1種電気主任技術者などの有資格者・高度人材が発電所を安全運転・管理を支えています。



中泊町は、青森県津軽半島中央部に位置する北津軽郡の町、小泊地域で水揚げされた「津軽海峡メバル」が特産品です。人口は約1万人(2020年4月現在)

□ 中里風力発電所は林業の効率化に寄与しています。

新たに建設した風車へのアクセス道路は、森林の管理、木材の運搬等林業の効率化に役立てていただいています。



国有地を利用した中里風力発電所は、設備(アクセス道路)と地元の森林経営が共存しています。高規格な風車アクセス道路を使い、切り出した木材を尾根へ上げて大型の輸送車両で搬出します。



話題のインタビュー

今後、鳥取県で予測される地震などデータに基づいた防災対策や安全対策で具体的な備えをすることが重要



鳥取大学 名誉教授
防災功労者内閣総理大臣表彰受賞(平成28年)

西田 良平先生

鳥取県における地震に関する第一人者として、鳥取県防災顧問や鳥取県原子力安全顧問を務める。

Q 日本列島における自然災害が多発した事例を教えてください。

A 日本列島では、歴史的にいくつかの大災害が発生していますが、特徴といえるのは、海溝型地震(津波を伴うこともある)と火山活動の連続して発生することが非常に高いと言えることです。

□奈良時代(9世紀後半)

東北地方に864年貞観地震による巨大津波、その前に富士山噴火、そして仁和南海地震が発生し、山陰地方にも出雲地震など内陸地震が発生した。

□江戸時代(18世紀初期)

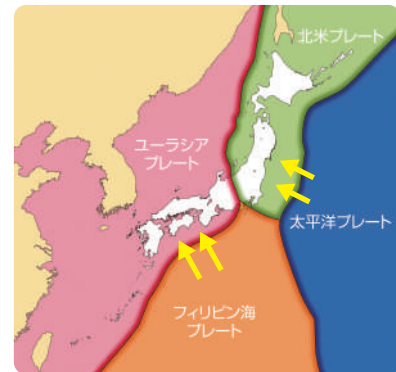
史上最大級の元禄関東地震(M8.3)、宝永南海地震(M8.5)が発生し、富士山の宝永大噴火で江戸に火山灰が降り、鳥取県中部で被害地震が相次いだ。

□大正・昭和時代(20世紀前半)

1914年桜島大噴火(桜島の正大噴火)、1923年関東大震災、山陰地方での地震が活発となり1943年鳥取地震が発生、1944年、1945年に南海トラフでの巨大地震が発生

□現在(21世紀前半)

1995年阪神淡路大震災以降、日本列島は活動期になっています。2011年東日本大震災で巨大津波が襲来し、2000年鳥取県西部地震、2016年熊本地震、2016年鳥取県中部地震と内陸地震が続いています。火山活動では、フィリピン海プレート周辺の火山活動が活発で、小笠原諸島の西之島による新島形成、海底火山噴火による沖縄諸島への軽石漂流などは記憶に新しいところです。フィリピン海プレートの活発化で南海トラフの巨大地震の発生が懸念されます。



Q 鳥取県、山陰地方における地震の特徴を教えてください。

A 現在の状況は、日本列島全体が活動時期に入っていると言えますし、山陰地方では歴史的に大地震が発生しています。

- 山陰地方はひずみ集中帯であり、地震が発生する地域であり、今後も発生することは考えられます。
- 今後、警戒すべき被害地震は、鳥取県及び周辺域に発生する可能性がある内陸型地震であり、「雨滝一釜戸断層」における中地震(M6強程度)、山崎断層の大地震(M7クラス)が発生することは考えられます。

Q 今後、山陰地方において発生する地震の場所や大きさなど、先生の予見をお聞かせください。

A 鳥取県で発生する可能性があるとしたら、内陸型の中地震(M5以上7未満)です。「雨滝一釜戸断層」(鳥取県東部)でM6強程度は考えられます。また、県外ではありますが、「山崎断層」(兵庫県南西部～岡山県北部)でM7クラスの地震が発生する可能性があり、発生すると鳥取市内も揺れ、影響があるといえます。なお、「岩坪断層」は活断層ですが、地震がすぐに発生する観測は現在見られません。このように、鳥取県においては、地震が起きるという前提の下、備えが必要であると言えます。

正しく備えるためにも、「地震が起きて大丈夫です」というような漠然とした言い方ではなく、揺れの大きさなどを具体的に示して、例えばですが、「M7クラスの地震が来ても、対応しています」など、具体的な説

明をしていくべきだと思っています。

風力発電所の建設に関しては、「東日本大震災発時、稼働中の風車が大きな影響を受けたとの報告はない」「法律(建築基準法)では、東日本大震災級の地震が発生しても風車は倒壊しないように建設するように定められている」など、漠然と伝えるのではなく、具体的に伝えていると聞きました。具体的に説明していくことは重要なことだと思えます。

